

「農村景観応援団」による地域活動は、各新聞に取り上げられました。

美しい景観次世代へ

農水省「応援団」が訪問 河辺の鵜養集落

景観を生かした農村振興を図る農林水産省の「農村景観応援団」（農業経済、農山村振興などの専門家九人で構成）のメンバーが二十二日、秋田市河辺の鵜養集落を訪れた。集落に残る茅葺き屋根住宅や堰など、農村景観の保全・活用に向けた取り組みについて、住民約二十人と意見を交わした。



金田氏（右端）らと住民が美しい農村景観の維持・活用について話し合った意見交換会

保全・活用で意見交換

金田氏は、景観を生かしたまちづくりを展開している全国の先進事例を紹介。「景観を大切にすることで、その地域の資産価値が高まることはあり得る。価値の高い景観と

農村景観を維持するための地域活動を支援する農水省の応援団派遣事業に市が応募。「景観保全の意義を地域住民にどう理解してもらい、地域活動を活発にするための機運をどう高めるか」という市の問い掛けに、応援団メンバーの元京都大副学長で人間文化研究機構長の金田章裕氏（人文地理学、歴史地理学）が助言した。

秋田県秋田市河辺鵜養地区

は、周囲の環境に適したものであるといふことだ」などと述べた。住民からは「年配の人が次々となくなり、下の世代に受け継ぐべきことがきちんと受け継がれていない」という問題がある。「美しい景観を維持したい」という願いは住民共通の思いだが、高齢化で耕作放棄地の増加といった問題も出ており、結果的に景観を損なうことになっている」など、直面している課題が挙がった。鵜養集落は六十五世帯、百七十三人（九月末）。大又川と小又川の中間に位置し、集落を流れる堰は、点在する茅葺き住宅の美しさと相まっ

金田氏は農水省、県、市の職員ら十二人とともに現地入り。市農業農村振興課の担当職員の案内を受けながら集落内の古民家などを巡り、集落近くのへそ公園や伏伸の滝を見学した。引き続き、鵜養公民館で住民と意見交換を行った。

て、一九九八年に「美しい日本」のむら景観コンテスト」で全国土地改良事業団体連合会長賞を受賞している。鵜養町内会の佐藤金正会長

